

# サッカーを通じた地域貢献・指導者養成

埼玉県立浦和東高等学校

## 【浦和東高校 サッカー部】

### ○概要

- ・部員数 250名
- ・「ここから日本一になる」ための3つのアイデンティティとして
  - ①準備する力を養う ②人として大切なことを忘れない ③強いサッカー部・愛されるサッカー部を掲げ、日々活動している。
- ・今年度の実績：関東大会出場、選手権・インターハイ埼玉県予選県大会出場  
Aチームは県リーグS2リーグ、Bチームは南部支部SS1リーグ所属
- ・OBに川島永嗣選手をはじめとするプロサッカー選手を輩出

### ○サッカー部の活動以外に（250名の部員全員が輝ける場所を）

- ・サッカー日本代表戦、高円宮杯チャンピオンズシップ、楽天カップ、ルバンカップ、Jリーグのボールボーイ等役員活動、
- ・特別支援学校とのサッカー交流
- ・グローバルアスリート(川島選手が代表を務める、サッカーを通じて生きた英語を学ぶ英語スクール)のボランティア
- ・使わなくなったボール、スパイク等、サッカー用具を外国へ支援
- ・審判活動(ユース審判)
- ・スタディグループ(週3回の活動の時間を校内での勉強とすることにして、難関大学の一般受験を目指す)

## 【浦和東高校スクール班、年間での取り組み】

- 12月 新チーム結成と共に埼玉スタジアムサッカースクール(以降、埼スタスクール)アシスタントコーチのレギュラーメンバー決定、現2年生20名が参加
- 1月 昨年のメンバーと共に2週間程度研修期間を設け、その後通常レギュラーメンバーとして活動(1日4時間、週1回、年間40回、各曜日に振り分ける)
- 7月 キッズリーダー講習会受講  
埼スタスクール Presents サッカー講座アシスタントコーチ参加
- 10月 埼スタキッズフェスタ、ボランティア参加(会場設営、受付、審判、参加チーム付きでのサポート等)
- 11月 美園交流会参加メンバー決定、トレーニング案を作る
- 12月 美園交流会

## ○埼玉スタジアムサッカースクールについて

下記の内容をサッカースクールの方に来校していただき、次年度スクール希望者に話してもらっています。

### ・概要

主 催：埼玉スタジアム2002公園(公益財団法人 埼玉県緑地協会)

運営委託者：スポーツマネージメント株式会社(現場責任者、スクールマスターはスポーツマネージメントの社員が行っている)

校 長：福田 正博(解説者、元日本代表、元浦和レッズ選手・コーチ、Jリーグで日本人初の得点王、ミスターレッズ)

主 な 業 務：①スクールの備品の準備 ②スクール生への見本 ③元気な声でスクール生に声をかける  
スクール現場で得られる経験値：

①サッカーができる喜びを客観的に感じれる

②サッカーの基本プレーが確認できる

③人に物事を伝える難しさ、大切さ、素晴らしさを体験できる

主なスケジュール：

15：45 埼玉スタ到着 スクールウェアに着替える

15：50 スタッフより、本日の備品配置場所の説明

16：00 準備開始 (主にゴール設置)

16：25 備品設置完了 担当クラスへ移動

16：30 スクール開始 2部の時間帯(キッズ60分・その他80分)

17：50 2部終了 スクールの備品配置変更

18：00 3部開始 全クラス80分

19：20 3部終了 スクールの備品配置変更

19：40 備品移動完了後、控室(クラブハウス)に移動し、振り返りシートの記入

20：00 全業務終了 帰宅

活動の様子 (※写真は埼玉スタジアムサッカースクールより)





K君

2月

◆ 今日の振り返り ◆

できたこと  
名前を覚え、名前を叫んで「コーン」を覚えてくれた。  
前回は抜いて「レ」に注意されたので今回は抜かずに「レ」する事ができた。

できなかったこと  
スモールが始まる前の準備をきちんとして、スモールが始まるギリギリの時間になってしまった。あと3人で名前を呼ぶことは出来なかったと思った。

次回がんばりたいこと  
スモールが始まる前の準備をしっかりと行い、自分がゲームの担当したチームの名前を叫ぶだけでなく、他のチームの名前も覚えておきたいと思った。

6月

◆ 今日の振り返り ◆

できたこと  
初めてのキックを打った。子ども達と仲良く会話したり、名前を覚えてくれた。うれしかったので、みんなに話した。キックを打つときは、ボールを打つときに足で蹴る感覚が良かった。

できなかったこと  
前回のスモールで、12年と56年と混ざってキックに当たって出た。11年と12年と混ざって打つようにして、11年と12年のように打つようにして、キックの打ち方は、みんなと一緒のように打つようにして、出た。自分が無くて、子ども達が元気に出たように、声も出してあげた。みんなが自信が持てる。

次回がんばりたいこと  
11年と12年と混ざって打つようにして、11年と12年のように、11年と12年のように打つようにして、出たようにした。

8月

◆ 今日の振り返り ◆

できたこと  
7月に入ったこと、12年、56年、11年のクラスに移動した。12年、56年、11年のクラスのように、自然体で子ども達と接することが出来た。良かった。

できなかったこと  
お助けマンあいの1対1のときに、子ども達と接することが出来た。子ども達のことを意識して、逆に1対1に打ち勝つように、みんなを見て、ゲームのときに子ども達と接してあげることが出来た。

次回がんばりたいこと  
12年、56年、11年のクラスに移動した。12年、56年、11年のクラスに移動した。100%で子ども達と心から楽しんで練習してあげたい。

年間の活動を通して、自分の考えていることが明確になり、その考えを言葉にして伝えられることで、自分の行動が改善できるようなサイクルになりました。

### ○JFA 公認キッズリーダー養成講座について

埼玉県サッカー協会、JFA 公認キッズリーダー養成インストラクターの浅見さんをお招きし、キッズリーダー講習会を行いました。座学での講義を2時間、実技の2時間の中から、U-10年代の子どもたちに対する指導について勉強しました。

< 講義 >



< 実技前のミーティング >



< 実技 (ボールフィーリング) >



# 【美園コミュニティセンターとの交流会当日】

## ○トレーニング案

U-8

2020：美園コミュセン浦和東高校サッカー部との交流会 【指導案】		15組30名
実施日	2019/12/14 (土)	1,2年生(U-8)
		13:30~14:30
		担当生徒：菱川、尾崎、久原、鈴木(利)
挨拶	コーチの自己紹介・目的 (5分)	
W-UP	鬼ごっこ (10分)	
【オーガナイズ】	手つなぎ鬼 高校生も入って行う(鬼も逃げるのも共に) 全員捕まるか、時間(1分から1分半)で1セット 各セットの合間は1から2分レスト	
※捕まりにくくなってきたら鬼2人にする		
Tr1	ドリブル→シュート (10分)	
【オーガナイズ】	5コース作る アシスタントのコーチが周りでボール拾いと声掛け	
※簡単にゴールするようならGKをつける(高校生)		
Tr2	ドリブル→シュート (10分)	
【オーガナイズ】		
Game	5v5 (30分)	
【オーガナイズ】	5分×6試合(子3チーム、大人3チーム)	
挨拶	まとめ・挨拶	

U10

2020：美園コミュセン浦和東高校サッカー部との交流会 【指導案】		15組30名
実施日	2019/12/14 (土)	3,4年生(U-10)
		15:00~16:30
		担当生徒：富田、相田、鈴木(歩)、田村、小平
挨拶	コーチの自己紹介・目的 (5分)	
W-UP	鬼ごっこ (12分)	
【オーガナイズ】	鬼は子4、コーチ2 高校生も入って行う(鬼も逃げるのも共に) 全員捕まるか、時間(1分から1分半)で1セット 各セットの合間は1から2分レスト	
※捕まりやすくなってきたらしっぽ取りにする(ビブス用意)		
Tr1	ボールフィーリング (15分)	
【オーガナイズ】	親子で2人組 ①ボール投げ→キャッチ (ボールが浮いている間に頭、肩、もも、手を叩く) ②対面パス ③間にボールを置いて1v1 コーチの合図でボールを取りに行く ④コーンを置いてドリブル 細かい・足の様々な場所タッチ、顔を上げることを声掛け	
Tr1	ドリブル→シュート (12分)	
【オーガナイズ】	5コース作る アシスタントのコーチが周りでボール拾い 細かい・足の様々な場所タッチ、顔を上げることを声掛け できてきたらスピードを上げるよう声掛け	
※簡単にゴールするようならGKをつける(高校生)		
Game	5v5 (40分)	
【オーガナイズ】	7分半×6試合(子3チーム、大人3チーム)	
挨拶	まとめ・挨拶(5分)	

# 1年間のスクールの経験から生徒が考えたトレーニングです！！

## ○活動の様子

当日は2年生9名、1年生3名の計12名が活動を行いました。

<挨拶>



<対人パス>



<ドリブル → シュート>



## ○生徒の感想

**○君** 昨年度も参加しましたが、昨年度はスクールも経験していなかったため、先輩方のやっていることについていだけで精一杯でした。子どもたちに対してもどう声掛けしていいか、どう接したらいいのか全く分からないまま、あっという間に終わってしまいました。しかし、今年度スクール活動や、キッズリーダー講習会を受けたことで、うまくコミュニケーションを取りながら練習を進めることができました。自分たちで練習メニューを作り、それを進めていくことの充実感、達成感を得られました。将来、サッカーの指導に関わりたいと考えているのでこの経験を財産に今後の部活動も前向きに頑張っていきたいです。

**T君** 僕は中学時代まで埼玉スタジアムサッカースクールのスクール生でした。中学時代、浦和東高校の先輩方がスクールのアシスタントコーチとして優しく接して下さったことがきっかけで浦和東サッカー部に入りました。現在、僕もスクールのアシスタントコーチとして子どもたちに関われることで、子どもたちにも同じように経験をしてもらえたらと思っています。今回の交流会もそんな思いで活動しました。自分たちで練習を考え、当日の流れを進めていくことは大変でしたが、貴重な体験ができました。また来年度もスクール活動も含め関わっていきたいと思います。

## 【まとめ】

### ○課題を把握するために

- ・毎年コミュニティセンターが実施し、統計していただいているアンケートをもとに振り返りを行う。
- ・生徒自身の主観だけでなく、周囲の方々の客観的な目も材料にして考える。

### ○解決する課題の設定

- ・この行事のあり方を学校・コミュニティセンター・受講した親子のニーズと違う視点から考える。
- ・毎年メンバーが違う中、同じ課題にならないようにする。

### ○地域との連携

- ・この取り組みは、地域の市報(緑区)にも取り上げていただいている。より参加者を増やす手段として、生徒が交流会に向けて、コミュニティセンター側と積極的に連携をとって宣伝を行ったりすることもあれば地域の方々もより協力してくれるのではないかな。

### ○活動その後

- ・埼スタスクールコーチ、キッズリーダー講習会、美園交流会等、現在スクール班が行っている活動はどうしても環境が提供された上での活動となっている。新チーム発足と同時に新しいスクール班が結成され、活動を行うので、余裕がない現状があり、だんだんと慣れてきたタイミングで活動が終了してしまう。次年度に少しでも多くの経験者が残ることで、より生徒が主体的にできる班としたい。